

# 韓 国 の 童 謡

任 東 権

韓国では童謡を ①創作童謡（童謡詩） ②伝承童謡 ③識謡の  
三つに分類している。

創作童謡は個人による創作であり、現代詩のジャンルに属するの  
で、本論では対象にしないこととして伝承童謡と識謡が、広い意味  
で昔からうたわれて来た歌であるので、ここで、対象にしようと思  
う。しかし特に識謡に対して述べることにする。

韓国民謡の分類にあたって、類型総数五三六型（任東権編『韓国  
民謡集』による）のうち、童謡は二三九型があり、類別数は次の様  
である。

動物謡（七六）	
鳥類	三一
畜類	一三
昆虫類	二〇
魚類	一一
植物謡（一一）	
木類	二
草類	五
採菜類	五

情緒謡（三二）

家族 一〇

感傷 一一

情婚 一〇

恋母謡（七）

子守謡（六）

自然謡（七）

諷笑謡（四二）

語戲謡（九）

数謡（三）

遊戯謡（三九）

其他（六）

これらは、小供たちの歌として昔から伝承されたもので、歌われ  
るものと、もう音楽性は脱落して詞だけのこったものもある。童謡  
とは本来は、これらの歌のことであった。今もなお子供同士が肩を  
くんで遊ぶ時や道を行きながら歌われて来た。これらの歌は、詩経  
で、「合曲曰歌 徒歌曰謡」と云われたように、謡に該当するもの  
で、音曲に拘束されずに自由にうたわれ、即興性と集団性があっ

た。

讖語とは未来を予言、予示、先兆、予兆した歌である。讖の方法としては、古来より図讖書讖語讖の三つがあったが、歌でもって未来のことを予言予兆した歌が、讖語である。したがって昔の人々は童謡を予言の歌とみなしたのである。

古代人の意識の中には、超人間的な神の存在を認め、神はあらゆる事象を悉知し、また然らしめているものと思い、それが何らかの方法で啓示されると決めて、純真な子供らの口を通して、表出されるとして、讖語の発生とその予言、予兆を信じて来た。童謡は天童がおりて来て歌うので、天の声であり、自然の声であり、萬民の声であると思った。したがって、童謡は真理であり、未来を予め見究める語であるので、信じるべきであると思つたのである。

語で未来の事象を予言した讖語は、古くから伝わっているが、次の様である。

新羅時代の讖語は二首が、記録されている。薯童謡は新羅の公主と百済の貧乏息子である山薯掘りの薯童との恋をうたったもので、語の予言は的中して遂に二人は、結ばれたのである。文献に、「満京兒童唱」と記録されているから、京内の子供集団がみな唱つたものとみられる。単なる童歌でなしに、ある事件を予言した所に讖語としての機能があつた。

鷄林謡では「鷄林黄葉 鵠嶺青松」と言つて、新羅の滅亡、高麗の建国を予言した。鷄林は新羅の都である慶州のことであり、鵠嶺は高麗の都である開城のことである。したがって鷄林の新羅は黄葉になつて昏がせまり、鵠嶺の開城は青松が茂つてあるので、益々隆

盛することを暗譬したのである。語の予言は的中して、新羅は滅びその後を、高麗が継承した。

百済時代の讖語として、完山謡と亀背文が伝わっている。後百済王甄萱は多くの子供がいたが、後継問題で兄弟が争い、ついに父まで監禁するようになり、その隙に玉建に襲われて滅びた。この様な状況をうたった完山謡は「可憐完山児 失父涕連濡」で、事件の歸趨を予言したのである。

百済は亡国の直前に色々な異変があつた。ある日宮内に鬼がはいり、大声で「百済亡」を叫び土中にもぐつてしまったので、掘つてみると亀が一匹あつて、その背中に「百済円月輪 新羅如月新」とあつた。王は巫者にその意味を問うた所「百済は満月であるので、間もなく虧ち缺け、新羅は三日月のように新月であるので、益々漸満する」と、答えた。その意味は百済はまもなく亡び、新羅は益々隆盛することをあらわした。この亀背文も中して、新羅によつて百済は滅亡されてしまった。

高麗時代の讖語は多く伝わっている。普賢刹謡、瓠木謡、萬寿山謡、墨冊謡、阿也謡、牛大吼謡、南寇謡、木子得国謡、李元師謡などがある。王室の激変や社会的大事件に先立つて、これらの謡がうたわれ、予言し歸趨を暗示したのである。

万寿山謡について文献備考に「忠烈王二〇年 有童謡 万寿山 煙霧蔽 未幾之世祖訃至」とあつて、王の死を予言したし、木子得国謡は、高麗末の童謡で、混沌たる社会情勢と、高僧辛屯の子が登極することを予言したものである。

李氏朝鮮時代になると、なお多くの讖語をのこしている。近代に

属して文献も多いし、事件も多かったからである。

南山謡、求麦謡、順興謡、望馬多謡、盧古謡、首墨墨謡、萬孫謡、忠誠詐謀謡、瑟破繇謡、四月謡、丙子謡、倭將清正謡、婆城謡、箕邑謡、蛇穴謡、刑杖謡、ミナリ謡、梅花打令、青鳥謡、璉準謡、桃花打令、午睡謡、カボセ謡、警世謡などがある。これらの謡の名称は、事件によってそのように付けたものが多い。

南山謡については文献備考に「本朝開国初 有童謡云 彼南山 任伐石 釘無餘」とあった。李氏朝鮮の開国功臣として、鄭道伝と南闔がいた。李太祖は王子八人の世子争いに巻きこまれて、二人は遂に命をなくしてしまった事件があった。南山謡で「山に行つて石を打つた所、釘の残りがなくなつた」と言う事は、釘と鄭の韓国音が同じで鄭道伝のことであり、無餘と南闔の韓国音が同じので、音にならつて、鄭道伝と南闔二人の死を予言したのである。

李氏朝鮮時代になつて、儒学者達の童謡観をうかがう事が出来る資料がある。

先ず建国初の高官であり学者であつた下季良(AD一三九六一—四三〇)作の次の様な時調(定型詩の一つ)がある。

治天下五十年に 天下の事を知らず

億兆蒼生が 戴己を願うやら

康衢に聞童謡して 天下の太平を知る

王の政治がよく、国民が満足して太平を享けているかいないかは、童謡をきくと分る。良い政治であれば太平をうたい、悪い政治であると、不満と怨みが謡に反映されるようになる。それで、民謡は人々の心の反映であり社会の反映がある。したがって、民謡、童

謡を聞いて、世相の良悪を知ることが出来るので四通五達した人出の多い街に行つて、気盡に歌う童謡をきいて、判断したのである。

中国では古代から、王が良く康衢で童謡をきいた。『列子』—仲尼篇によると、

「堯治天下五十年 不知天下治歟不治歟 乃微服遊於康衢聞童謡」と言った。民心を知るために、百姓の着物に着替えて、街で童謡をきいたのは、王道を全うするためには、童謡をきく必要があつたからである。下季良の時調は、古代中国王の国民を想う反省の方法であり、また、童謡こそ偽りのない率直な心の反映であることを認めたからであるので、儒学者の童謡観をあらわしたものである。

金安老(一五三七)は『龍泉談寂記』の著者である。『龍泉談寂記』には多くの識謡が童謡の名で収録されており、彼なりの童謡観を披瀝した。すなわち、次の様な主張をした。

。国之癘興 天命人心之背嚮 必有先兆之見 自昔而然

。是知 天地間一事一物 成毀生没

。街談巷童謡之興 不容人偽之雜 純乎靈之天

金安老の主張する趣旨は、国の興廢や天命人心のうごきには、必ず先兆があるもので、昔よりそう信じてきた。街でうたわれている童謡には、偽りやうそが受け入れられないし、純然たる天に応じたもので、童謡を通して天地間にあるあらゆるものの、生成と没落を知ることが出来ると言つた。すなわち童謡は単なる童たちの歌でなく、意味ある天の声自然の声万人の声として、その神秘性を深めたのであつた。童謡の予言性先兆性を認め識謡としての意味を看破したのである。

『文献備考』(AD、一七七〇)は王命によって編纂された一種の大百科事典である。その中には童謡も収録されてあるが、象緯考で取扱ってあるのが特徴である。童謡を詩の一類型として芸文考に分類して論ずるべきであるが、『文献備考』では象緯考に分類してしまった。象緯は自然現象であって、内容項目は日月星異、風雨異、山水地異、草木異とならんで童謡が収録されている。すなわち、童謡を日月星、風雨、山水地、草木と同類のものとした所に、編者の童謡観があらわれた。

芸文考では詩文を扱っているので、童謡も詩文の一つとして論ずべきものであるが、童謡は未来の事象を予言し、先兆する讖性があることによって、芸文と切り離して、自然現象の一つとみたのである。編者の考えは、童謡は詩文としての意味よりも、讖謡としての機能を重視したからであった。『文献備考』の童謡観は何よりも、当時の儒学者たちの童謡観をよくあらわしたものである。

以上のような諸事実からみて、次の様に結言することが出来る。

- ① 童謡の歴史は古く、創作童謡、伝承童謡、讖謡に三分類される。
- ② 讖謡は国家の興廢、王朝の盛衰、歴史的事変や社会の変動に先立って歌われ、
- ③ 天の声万人の声自然現象であり偽りがないので、
- ④ 人々は童謡を信じ、為政者は康衢で童謡をきいて治績の得失を判断した。
- ⑤ したがって、童謡の意味は時代や人によって、ことなった解釈をして来たと言える。